

立教の利益

立教大学チャプレン トーマス・プラント



新入生と保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。ご存知の通り、立教はキリスト教に基づく学院ですが、それは新入生にどのような利益があるでしょう。

まずは、伝統に目を向けることができます。立教は日本聖公会の組織なので、立教に連なる皆さんは創立者チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教から伝えられた立派な伝統にあずかります。そして、日本聖公会は世界中の聖公会の中でも、西暦 597 年に創立され、16 世紀に改革された英国国教会にも所属しています。本学院の礼拝堂で毎日用いる祈禱書は英国国教会の 16 世紀祈禱書に基づいています。祈禱書の言葉は、時代を超えて数え切れないほどの詩人、作家、政治家、哲学者、音楽家を含めた著名な方々の思想にインスピレーションを与えてきました。立教の皆さんはその歴史的伝統に所属しているのです。

しかし、聖公会の伝統は大事ですが、その元となるキリスト教の道、教えが大事なのです。「私は立教生だ」と示すいろいろなおしゃれなグッズを買っても良いのですが、立教に入学すると、立教全学院より大きな体の枝になるのです。立教は聖公会の一部ですが、世界各国の聖公会でも、教会全体の一部だけです。したがって、私たちの使命は世の全てのクリスチャンと同じ使命、つまりイエス様が十字架で示されたように自分を無にして、他人を愛することが使命です。この使命を見失ったら、私たちの伝統は意味がありません。

ここで先の質問に戻り、「キリスト教の学校に入学することは、どのような利益があるのでしょうか？」一言でいうと、十字架なのです。

イエス様が亡くなった日は日本語で「聖金曜日」と言いますが、英語では「Good

Friday」といいます。誰かが亡くなった日を「良い」というのは変わった表現ですが、神は暗闇から光を照らせるから「Good Friday」というのです。十字架は人間を殺すためにローマ帝国によって発明されたものですが、神の力によって、その暴力の器具でも命の器となることがあります。イエス様は亡くなり、父である神様の光から最も遠く離れてよみの暗闇にくんだり、人間の最悪の状態を経験されました。しかし、その暗闇は主の光を消すことができませんでした。むしろ、暗闇の中では、光が見やすくなります。十字架にかかられているイエス様の視点によれば、苦しみは愛する機会となります。主イエスと共に十字架の道を歩む私たちは、暗闇と苦しみの中にも、つねに神の輝く光、つまり永遠の命の希望を見失いません。

世界はつねに不安定に回っていますが、十字架はしっかりと立っています。マスコミは毎日、新たな不安材料を伝えています。そうすることが彼らの経済的利益になるからです。しかし、不安定な世界情勢の中で、十字架は信頼できるものです。世の価値観は変化しても、神は決して変わりません。そのため、人間の目的も変わらないものとなるのです。ゆえに、チャペルでは、古くからの伝統的な礼拝を捧げます。変わらない礼拝は人間の心を神の変わらない愛のように形づけるからです。十字架の変わらない存在に頼り、本学が与える教育的利益は、愛が満ちた人間を育てることです。それは私たちチャペルの礼拝と祈りの生活の主な目的です。

世界は回っても、立教学院は、十字架に強められ、しっかりと立ち続けますように。